

差上申済口証文之事

東海道神奈川青木町旅籠屋治郎右衛門煩
 ニ付代善蔵并差添平左衛門方より同所獵師町
 利兵衛店船乗伝吉・生麦村弥右衛門方ニ居候庄九郎
 兄平右衛門其外相手取訴上候食売女誘引出
 出入之義、右次郎右衛門抱はつ義、四月三日同町
 旅籠屋十兵衛方江貸遣先ニ而、同町台丁
 新兵衛召仕生麦村出生庄九郎と申者誘引
 出候ニ付、十兵衛方ニ而所々相尋候處、相手伝舟(伝吉)ニ而
 立退候由承、出舟路最寄之場所追々相尋、
 芝金杉河岸ニ而伝吉見出、右始末相尋
 候得者、一忘者不存旨申押隠候得共申紛
(難)かたく、両国柳橋辺迄乗船為致参候義ニ付、
 早々引戻相渡可申旨申之、則生麦村
 弥右衛門方ニ居候庄九郎兄平右衛門致同道、庄九郎
 并はつ兩人引返シ、同月七日連帰候節、
 大森辺ニ而猶又取逃行衛不相知候段申ニ付、
 十兵衛義も随分無油断尋候得共、行方不知候ニ付、

可仕様無之旨挨拶有之候故、兩人之者共取計
 方怪敷、全馴合之上行衛押隠候哉と奉存候間、
 一件之者共被召出、逸々御吟味之上右はつ
 相返候様ニ被仰付被下置度旨、先月八日
 訴上之双方御吟味罷成平右衛門・伝吉義者
 御吟味入牢被仰付、一件之者共一同
 恐入奉存候、仍而猶相手方之者共一同右はつ
 行衛種々相尋候得共、一向相知不申難儀仕候、
 然所同所清次郎并双方江戸宿共ニ立入取計
 双方熟段之上、一件御吟味下ヶ奉願御聞濟
 被成下難有奉存候、依之和談内済仕候趣、
 左ニ奉申上候
 一、平右衛門・伝吉義、右はつを取逃候始末、馴合之上
 行衛押隠候哉も難計候ニ付、御吟味中内々
 相糺候所、全右体之義無御座、江戸表より夜通
 連帰候ニ付、足弱之義休息為致呉候様申候間、
 大森辺往還人家之軒下ニ而暫為休居候内、
 一同(疲)つかれ居眠り候間、逃去候義ニ而、今更申分(誤)

難立迷惑至極之旨申、此上御吟味被成下候而も
実々存間敷趣相聞え、殊ニ相手方之者共、是迄
無如才はつ行衛尋候而も不相知候上者、訴訟方
ニ而も申分(誤)ケ無御座、尤此後共ニ女行衛之義聊も
無油断早々相尋引渡候様仕候筈、若見当候上
引取方彼是差支も有之候ハ、訴訟方ニ而も
心を添取返し可申旨相手方より一札差出熟談
相調出入内済仕、偏ニ御威光と難有仕合
奉存候、仍之為後証一同連印之済口
証文差上申候、如件